

K 国際理解教育

提言内容

互いの言語・生活習慣・価値観を大切にし、様々な人々と共に生きる児童を育てる教育の推進に関する提言

分科会の趣旨

近年、社会や経済のグローバル化・国際交流の活発化を背景に英語教育の重要性がますます高まり、同時に、英語教育で培った資質・能力を広い視野に立って、主体的に発信する力が必要になってきている。

学校では、体験的かつ、実践的な英語教育を通して、グローバル社会の中で人とつながるためのコミュニケーション能力の育成が求められている。また、国際理解教育の取組を通して、日本人としてのアイデンティティーの確立を図るとともに、国際感覚を育てて他国の生活習慣や価値観などの理解を深め、助け合いの態度育成につなげることが大切である。

週の授業時数は限界を迎えていていると言われている中で、新たな教科の時数をどのように生み出すか、中学校英語への移行にあたって「読む」「書く」の扱いをどうするか、指導者の資質・能力の向上、評価方法等取り組むべき課題は多い。また、来年開催の「東京オリンピック・パラリンピック」を見据えた「おもてなし」の精神に則ったコミュニケーション能力の育成等も求められている。

そこで、本分科会では、積極的に他者に関わろうとするコミュニケーション能力の育成を推進しながら、今後さらに進むであろうグローバル化に向けての教育の在り方、英語教育と教育課程の関係性などを校長の立場から分析・検討し、具体的な方策を明らかにし、提言する。

分散会の視点

第21分散会

グローバル社会の中で様々な人とつながり、共に生きる児童の育成

グローバル社会が進む中で生きていくためには、異なる文化を持つ人々が、互いの違いや価値観を尊重して受け入れ、新しい関係性を創造することが重要である。

それには、小学校期に学級の友達、地域の人々など、身近にいる人との人間関係づくりの基本を身に付け、さらに、日本人としての自覚をしっかりと持った上で、国際交流等を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する必要がある。

本分散会では、国際理解教育で育てたい力である豊かな社会性や自己表現力、コミュニケーション能力等を高め、さらに異文化理解を深めるための教育について協議し、校長の役割と指導性を究明する。

第22分散会

小学校期の特性を生かした英語教育の推進

近年では様々な分野で国際化が進み、国際共通語としての英語の重要性が高まっている。その中で、小学校における英語教育の効果への期待が高まり、高学年は教科となり、中学年には「外国語活動」が導入された。

学校は、小学校6年間の発達段階や中学校との連携を考慮しながら効果的に指導・実践していくために、内容の系統性を深めていく研究が求められる。そして、教育課程への位置付けや評価、英語環境の整備や教師の指導力の向上等の課題についても解決していかなければならない。

本分散会では、これから国際社会を生き抜く子どもたちの育成のために、小学校での具体的な実践を通して、今後の英語教育について協議を深め、校長の役割と指導性を究明する。